



千葉労働動向

なぜ今天皇が前面に!

自衛隊の海外派兵攻撃と一体のものとして、天皇の即位・大じょう祭攻撃が加えられている。

これは、偶然の一致でも、思いつきでもない。政府・自民党は、自衛隊や民間人、官公労働者を海外に派遣・派兵するために、現憲法さえ踏みじり、国家をあげてそれを遂行しようとしている。

しかし、それだけでは、仏つくつて魂入れず、である。そこで、天皇・天皇制が必要なのである。戦争と天皇は表裏一体なのである。まさに、即位の礼と大じょう祭は、敵にとってはこれ以上のかっこうの材料はないのである。

最後の切り札「天皇を前面におしださざるを得ないほど、日本帝国主義は危機なのだ。天皇の下には、労働者も労働組合もないとして、それに異をとねえる者、反対する者は力で封じ込めろ」というのである。

だが、今、全国各地で反対運動が巻き起つてきているように、大多数の労働者の反戦・反天皇意識は、今だ切り崩されてはいない。だからこそ、「派兵」「天皇儀式」が焦点化しているのである。このことをしっかりとらえよう。

十一月総決起は、必ず勝利への第一歩となる。又、そうしなければならぬ。十一月総決起を誰よりも恐れている右翼御用組合JR総連革マルを打倒・一掃するためにも、こころを張りろではないか。共に、たたかおう。

11/12 宮下公園に結集しよう!

極限的ペテン

「乗務員としての登用に
関する見解は、
以前と変わららない」!?

(申2号交渉)

十一月六日動労千葉は、千葉支社において「九一、三ダイ改」に伴う乗務員の訓練計画及び強制配転者の原職復帰、予科生の登用問題について(申2号)団体交渉を行った。

とりわけこの間のJR当局-JR総連一体となつた動労千葉根絶攻撃が職場に不安と疑惑のみを煽り、心理的圧迫をかけてきている点を追及し、強制配転と予科生の差別選別登用の問題について質したのである。

(当局)「組合所属ではなく社員として任用の基準に基づいて行っているもので、以前から見解は変わらない」

用しているではないか! それに強制配転者に対して当時現場長は、運転に欠員ができた時や京葉線などの業増によって復帰する道すじはあるのだから順次帰れる。(営業の経験をしてもらいたい)と云って説得してきた経緯があるではないか!

席上JR千葉支社当局は、「九一、三ダイ改」に伴って発生する、成田駅の切替や佐倉電留線の使用計画について、「支社は、周知徹底について揭示だけでいい」「何もしないよりいいでしょう」「電留線の規模については現段階では不明」などという不誠実きわまりない対応に終始した。

また、成田アクセスに関する新造車両の配属区や配属時期についても、「具体的にわからない」、京葉線への特急経路変更の持ち分についても「精査でき次第出す」というこの時期になつて何らの責任ある回答を示さない、団交の形骸化をする当局の姿勢を示している。(交渉ニュース次号参照)

(組合)「この間強制配転した者の中には、人活センター-無人駅管理-ミルク-売店などの組合排除と、運転が過員・営業が足りないとして『全員が経験してもらおう』という理由で配転をしてきた。昨年一〇月以前は一定の枠の中で運転職場に配転期間を考慮してもどしてきた経緯があり、又、八九、三ダイ改時の『配転期間も考慮する、乗務員賃金の問題については会社としても認識している』という確認があったが、昨年一〇月以降は、けとも言える差別-予科生の差別選別登用によつて人道上の問題ともなっている。組合所属によるものとしか言いようがない」

乗務員としての登用に
関しては、免許取得者の
中から誰を任用していく
のかを含めて『優先して
登用』していく考えである。

「(組合)「実際は、この間車掌経験者と言うことで、今回京葉運輸区において十一月一日に発令したように、車掌になつて一年にも満たない者を登用してはならない」

動労千葉は、当局の理不届極まりない対応を追及し、引き続き協議すること、「九一、三ダイ改」に関する部分についての具体的な労働条件の回答を求めて交渉を打ち切つた。

全員の原職奪還へ全力で取り組みを強化し、五万人体制へのさきがけとなる「九一、三ダイ改」を阻止しよう!

お詫びと訂正
日刊三三〇四号において団結祭典の成績を発表したわけですが、当方の不手際で順位に関して誤記がありましたことを深くお詫びいたします。
三位千葉支社となつておりますが

三位 館山支部
の誤りです。関係各位に対し陳謝する
しだいです。